

子どもたちにとっての学級は『安心・安全で楽しい場所』であることが最も大切です。そのためには、児童生徒と教師が一緒になって、学校生活をつくりあげていく必要があります。学級開きや普段大切にしたいいくつかのポイントを紹介します。



ポイント① 学級開きを大切にする（教師は夢をもち、語る）

確認



①学年・学級経営の目標を立てる

- どんなクラスに成長してほしいか、どんな人に成長してほしいかなど
- 学級づくりは春休みの準備が重要です。

②学級開きで、担任は思いを伝える

- 「1年間で、みんなで力を合わせて、こんなクラスをめざそう。」

※出会いの印象は大切です。「新しい担任の先生はどんな先生かな。」子どもたちの期待は高まっています。笑顔を忘れず、はつらつと語りましょう。



教師が夢をもつことで、子どもたちも夢を描くことができます。学級開きに向けて、時間をかけて準備することを惜しまない教師でいたいものです。



★「学級目標はみんなで作る」

学級目標は1年間を通して達成をめざす目標です。年度初めの学級会で、担任と児童生徒全員が思いを出し合い、『学級のシンボル・合言葉』として作りあげます。

学級開きで大切にしたいこと

担任自身が、まず子どもたちに自分をひらく。担任自身が「自分はどんな人か、どんな思いでいるか」を語ると、子どもたちとの距離が近づく。

この学級で出会った友達は一年間一緒に過ごす大切な存在であるということを皆で確認する。長期の欠席が続いている子どもがいる場合も、クラスの一員であることをしっかり伝える。



子どもたち一人一人に一年間の目標を設定させる。自分の目標をもつことが子どもたちの活動のエネルギーになる。

学級開きで大切にしていることや工夫していることについて、小・中学校の先生方にお話を伺いました。

子どもたちと必ず約束するのは「いのち」「友達」「みんなの物」を大切にすること。一年間通して大切にしたいことを思いを込めて子どもに話す。



服装や心構えなど、教師として子どもたちに範となる姿で教壇に立つ。子どもたちが来る前に花を飾り、教室をきれいに迎える。



ポイント②

まずは教師が、児童生徒との人間関係をつくる

確認



- ① 毎日、全ての子どもと一話を心がける
 - ・朝、教室で会ったとき、係の仕事に取り組む姿を見かけたとき、提出物を持ってきたときなど、温かいひと声をかけるチャンスです。
- ② 子どもが思いを出しやすい場を設定する
 - ・連絡帳の一言日記、生活（実践）ノート、教育相談など

※「〇〇さん、掃除を黙々と頑張ってたね。」何気ない一言ですが、児童生徒にとってはとてもうれしい言葉です。「いつも頑張りをしている」というメッセージを送ることで、担任に大事にされていることを感じます。

教師と児童生徒の良好な人間関係がなければ、児童生徒同士の人間関係も良好になりません。普段から子どもとともに喜んだり悲しんだりできる教師でありたいものです。



★「教師は子どもたちの姿を見ている」
教師が児童生徒ととことん向き合うことで、「教師の本気」が伝わり、本当の信頼関係を築くことができます。「先生はいつも見ている」、そんな本気の眼差しを求めています。

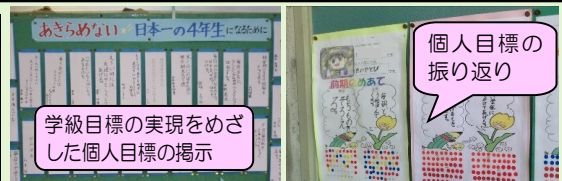
ポイント③

学級目標を通して活動を振り返る

確認



- ① 学級目標を日々の学校生活で具体的に示す
 - ・朝の会、終わりの会などを使って、定期的に振り返る。
 - ② 目標をもって取り組み、振り返る
 - ・大きな行事に向かうときには、目標をもとにどう取り組むか話し合い、行事後には取組はどうであったか振り返りをする。
- ※学級目標を通して振り返りを行うことで、クラスの絆は強くなっていきます。



★「学級目標に対する個人目標の設定」

学級目標は、意識され振り返ってこそ、効果があります。学級目標を実現するためには、個人としてどう取り組むのか『個人目標』を立て、振り返りの場を設定することが大切です。

ポイント④

友達の気付き・発見を大切に、共有する

確認



- ① 感想や日記の中から、友達の気付きや発見など心の動いた場面を取り上げ、紹介する
 - ・「自分と同じだな。」「自分とは違うな。」友達の心の動きを知ることによって安心感や共感が生まれる。
- ② よく発言する子だけでなく意図的に指名する
 - ・発表できたことで自信につながる。
- ③ その子のよさや困りごとなどを伝える

※児童生徒のそれぞれの気付き・発見は教科の授業においても『宝物』です。

教師は、一人一人の気付きや発見に敏感でありたいものです。一人一人を認める姿勢は、個々の児童生徒の自信と可能性を伸ばし、さらに、子ども同士の良好な関係性を育みます。

★「学校や教室を温かい空気で満たす」

教室の空気は、児童生徒同士の間にある関係性です。「〇〇さんすごいなあ」「ありがとう」「どうしたの？」認め合う関係を育てることで、温かい空気に包まれていきます。